

福岡大学病院における第1例目の脳死肺移植レシピエントの麻酔経験

岩切 重憲¹⁾ 安元 正信²⁾ 濱田 孝光¹⁾
白石 武史³⁾ 平塚 昌文³⁾ 宗像 光輝³⁾
白日 高歩³⁾ 山下 裕一^{2,4)} 樋渡 文雄⁵⁾
徳持 朱実⁵⁾ 真子 文恵⁵⁾ 林 晶⁵⁾
坂本 真美⁵⁾ 生野慎二郎¹⁾ 香取 清¹⁾
仁田原慶一¹⁾ 比嘉 和夫¹⁾

1) 福岡大学医学部麻酔科

2) 福岡大学病院手術部

3) 福岡大学医学部外科学呼吸器部門

4) 福岡大学医学部外科学消化器部門

5) 福岡大学病院看護部

要旨：われわれは、福岡大学病院で第1症例目の脳死肺移植の麻酔を経験したので報告する。症例は32歳の男性で、閉塞性細気管支炎により以前から肺移植の適応として登録されていた。肺移植は脳死者からの左肺の片側肺移植が行われた。麻酔はミダゾラム、フェンタニル、ベクロニウムを用いた全静脈麻酔で行った。人工心肺を用いることなく分離肺換気のみで肺移植を終えた。術中に異常な低酸素血症や肺高血圧をきたすことなく麻酔管理できた。

索引用語：脳死肺移植，分離肺換気